



1月21日開催
東地申第28号

「車両検修部門(田端・尾久)統合について」 に関する説明申し入れ 団体交渉を行う!①

1. 田端運転所検修部門と尾久車両センターを統合するとした経緯と根拠を明らかにすること。

回答: 新型事業用車両の導入、輸送体系の変化、世代交代と社員数の減少等の構造変化に対応するため、田端運転所の車両検修部門を尾久車両センターに統合するものである。

組合

- 統合の根拠や目的を具体的に示すこと。
- 回答があった「弱み」とは何か明らかにすること。
- 本施策と「ミライの車両サービス&エンジニアリング構創(S&E構創)」との関係性について明らかにすること。

会社

- プロジェクトを立ち上げて検討してきた。両区所には強みがある。田端運転所では牽引車の技術が、尾久車両センターには牽引される車両の技術がある。これらとお互いの弱みを補完していくものである。スピード感を持って取り組んでいく。
- 田端運転所はELという特殊な車両をメンテナンスしており、一般的な電車のメンテナンスに関わる機会が少ない。今後、機関車が無くなる中で、電車や新型車両のメンテナンスに取り組んでいく。
- S&E構創については、メンテナンス力やマネジメント力が必要とされている。尾久車両センターの特徴として、四季島やE655系、キヤE195系など特殊な車両を扱っている。業務の波動も大きい。例えば冬にはレール輸送が少ない。そのため役割分担にとらわれない働き方をつくっていく。多能工化もひとつだ。多様な車種に対応できるようにしていく。

統合にスピードだけを
求めると安全に関わる!
それぞれの職場風土を
重視することが大切!

2. 本施策によって、体制がどのように変更されるのか具体的に明らかにすること。

回答: 業務に必要な要員は確保していく考えである。

- 現在、検討している体制を明らかにすること。
- 現場では田端運転所の意見をワーキンググループに伝えても通じないと言われている。現場社員の意見を聞くこと!
- 若手とベテランで温度差がある。より良い方向にいかない。良いものは残していくべきだ! 職場では意見集約しているのか?

ワーキンググループに意見を
伝えても反映されない!
実施ありきの議論ではなく、
現場の意見を反映させるべき!

- 決まり次第示す。イメージとしては田端運転所の検修部門を尾久車両センターに組み込むものである。
- 両区所でやり方が違うため、統合するうえで統一していかなければならない。田端運転所が尾久車両センターに吸収されるのではなく、新しい職場をつくっていくことを目的に行っている。支社も参加しているので意見があればワーキンググループに伝えていただきたい。
- ワーキンググループメンバーは所長から任命され、業務の中の会話などで情報の共有がされている。課題についてはワーキンググループの中で議論を重ねていく。



1月21日開催
東地申第28号

「車両検修部門(田端・尾久)統合について」 に関する説明申し入れ 団体交渉を行う! ②

3. 施策実施に伴い、教育および技術継承をどのように行っていくのか、考え方を具体的に明らかにすること。

回答:必要な教育・訓練は実施していく考えである。

組合

- 教育訓練をどのように行っていくのか具体的に明らかにすること。
- 人材育成の考え方を具体的に明らかにすること。
- **誰でも何でも行えるようにするべきではなく、深い知識技術を持てるような人材育成にしていけばいい!**
- どうしたら1本となるのか?教育の考え方を示すこと。

会社

- ベストプラクティスもふまえながら、両区所で業務量が最も多いものがキヤE195系であり、今後も運用していく車両であるため、仕業検査、交番検査、レールセンターでのつみつけ検査などを**誰でもできるようにしていく。**
- 今後は、できる業務の範囲を広げていく。主担務はあるが、業務の波動が大きいため、例えば技術管理が交番検査に入るようなやり方も目指していく。
- 基本的にはOJTで教育を行い、その後、見極めを行う。基本的には3回である。さらに不安があれば教育していく。机上教育によって基本的な知識は教育する。

車両の安全や品質向上のため、“何でも屋”ではなく 深い知識や技術を身に付けるための人材育成が重要だ!

4. 現在尾久車両センターにおいて間内改良工事が行われているが、本施策によって詰所や作業場など、労働環境がどのように変更されるのか明らかにすること。

回答:必要な設備の整備は行っていく考えである。

- 労働環境が変更となる点を明らかにすること。

- 検討中であり、決まり次第お知らせする。田端運転所は基本的には現在あるものを活用していくが、作業頻度もあるので検討していく。

確認!

5. 現在誘導業務について、田端運転所構内は田端運転所検修部門が担当し、尾久車両センター構内は尾久駅が担当しているが、統合後はどのように変更になるのか明らかにすること。

回答:田端運転所が担当している車両誘導業務は、尾久車両センターに移管する。

- 誘導業務について、変更点を明らかにすること。

- 区分けの変更は行わない。
- 統合によって南部・東部は尾久車両センター構内となる。



1月21日開催
東地申第28号

「車両検修部門(田端・尾久)統合について」 に関する説明申し入れ 団体交渉を行う! ③

6. 田端運転所検修部門社員の点呼場所と待機場所がどのように変更になるのか具体的に明らかにすること。

回答:具体的な場所が決まり次第、社員周知していく考えである。

組合

- 点呼場所はどこになるのか明らかにすること。
- 尾久車両センター庁舎から田端運転所への移動時間はどれくらいを想定しているのか?
- なぜ全員尾久車両センター庁舎で点呼を受けるのか、目的を明らかにすること。
- 車両故障があれば対応するのに時間がかかり、出区にあたりが出る可能性もある!どのように対応するのか明らかにすること。

会社

- 全社員が尾久車両センター庁舎に行って点呼を受けることを検討している。
- **移動時間については、20分以内を想定している。**
- 出社場所が違い、顔を合わさないと業務に隔たりがでてしまう。また、多能工化により、その日の業務によって出社場所が変わるのはよくない。**職場の一体感を持てる機会を設けるため全員尾久車両センター庁舎で点呼を受けることで検討している。**
- 必要な作業時間は確保していく。
- 田端運転所構内で発生した故障は時間がかかるが、仕業検査を担当している人に緊急対応してもらうことは可能だ。連絡体制をとっていく考えである。

車両故障にも即座に対応できるようにするべきである!

7. 2022年4月の統合に向けた詳細なスケジュールを明らかにすること。

回答:引き続き、必要な準備を行っていく。

- 工事スケジュールを具体的に明らかにすること。
- 教育スケジュールを明らかにすること。
- 決まり次第と回答されたが、社員周知を行うこと。

- 検討中であり、決まり次第お知らせする。尾久車両センター庁舎2階のワンフロア化工事、尾久車両センター内での引っ越し、システム工事などを行う。さらに田端運転所の引っ越しも発生する。これらは、実施日までに行なっていく。
- 1月からすでに田端運転所構内誘導の教育や尾久車両センターの電車の仕業検査の教育を行なっている。今後は、東京レールセンターの教育等を行う予定である。
- 社員周知は行っていく。

説明交渉をもとに、職場議論で要求項目を練り上げよう!